

岡山天体物理観測所 観測データ公開方針の改訂 (提案)

データ公開方針改訂 - OAOUM 2009

1

従来の観測データの公開方針

1996年光赤外ユーザズミーティングでの議論により以下の方針が合意されていた:

1. データ取得後、データのファイル名、観測天体、観測者名などのデータヘッダの一部の情報は直ちに公開する。機器データの種類によっては、国立天文台天文データセンターによって開発されたデータアーカイブシステムSMOKAによって、WWW上で上記の情報が公開される。
2. データ取得後1年が経過したデータについては、データヘッダの内容が公開される。SMOKAに対応した機器の場合は、SMOKAによりデータヘッダ、早見画像が公開される。
3. データ取得後2年が経過したデータはSMOKAを通じて完全公開される。

データ公開方針改訂 - OAOUM 2009

2

実状

- ヘッダの一部の即時公開、1年後のヘッダ公開は行われていない
- 観測データを自動転送するようにしていない
- 理由:
 - サーバへのデータの保存には決まったフォーマットがあり、観測者が転送を行う場合、このフォーマットに従わない形で保存してしまうケースがみられた
 - データ内容、ヘッダ情報を確認する必要
- これまではSMOKAのシステム的な問題もあったが、最近の更新でほぼ解消されている

1996年の合意事項を遵守すべきか？

- 岡山観測所のデータのアーカイブからの利用は極めて限定的
- これまでにヘッダの一部の即時公開、1年後のヘッダ公開をユーザから要請されたことがない
- データ保存方法を大幅に変更しない限り、SMOKAへのデータ転送において人間の介入は必要。ヘッダの一部の即時公開はリソース的に困難

データ公開方針 改訂の提案

・岡山天体物理観測所が開発した観測装置(HIDES、ISLE、KOOLS および過去のSNG、OASIS)を用いた188cm望遠鏡での観測データ(共同利用観測データおよび観測所時間のサイエンス観測データ)は、原則的に専有期間を過ぎた時点で一般に公開される。科学的データ解析に適しない、試験観測などのエンジニアリングデータ等は原則的に公開しない。

・データ公開は国立天文台天文データセンターによって開発されたデータアーカイブシステムSMOKA(Subaru-Mitaka-Okayama-Kiso data Archive system)を通じて行われる。

(要は現状を追認するもの)
・観測者のデータ専有期間は原則として2年間とする。

データ公開方針改訂 - OAOUM 2009

5

岡山データの有効利用にむけて

- 一般に分光観測データはアーカイブ利用が難しい面もあるが、SMOKAを通じた観測データの有効利用が活発になることが望ましい
- 岡山webページ上での周知をしっかりとるつもりである
- アーカイブデータ利用の活性化のためのアイデアがあればお知らせ下さい。
 - 専有期間2年は妥当か？

データ公開方針改訂 - OAOUM 2009

6